

いっしょけんめい
一笑懸命
 2024（令和6）年2月16日
 福山市立日吉台小学校
 学年通信 No 28

「あすチャレ！スクール」開催

2月8日（木）に、パラスポーツの体験やパラアスリートとの交流を通して、「障がいとは何か」「夢や目標をもち、チャレンジすることの大切さ」を考えるために、「あすチャレ！スクール」を行いました。「あすチャレ！スクール」は、日本財団パラスポーツサポートセンターが行っている事業です。本校には、2000年シドニーパラリンピック男子車いすバスケットボール日本代表キャプテン根木慎志さんに来ていただいて、実際に競技用の車いすに乗ってバスケットボールやリレーを体験したり、お話を聞いたりしました。根木さんは、「やってみようとする気持ちが大切。できなくてもやろうとする気持ちが大切。」ということを自分の体験を交えながらお話してくださいました。



今日は、根木先生の話や、プレーを見て、私は、苦手なことへの見方が変わりました。最初は、苦手なことや授業があったら「嫌だな。」「やる気が出ないな。」と思っていました。根木先生の話聞いて、苦手なことにチャレンジして、失敗したら怖いと思うこともあるけれど、まずは、「やってみようかな。」という意識をするようにすること、苦手なことにも、逃げずに積極的にチャレンジしようと思いました。

栗原 歩花

根木先生のドリブルや、シュートを見て、車いすを乗りながらできるのは、とてもすごいと思いました。ばくは、「もうできない。」と思ったらもうそこでやめてしまうけど、根木先生はできなくても何度もチャレンジすると聞いて、ばくもチャレンジしようと思いました。今日やった車いすリレーは、できなと思ったけど、挑戦したらできました。ばくは、すごく楽しかったです。車いすバスケットをもっと知りたくなりました。バスケットや車いすバスケットが少し好きになりました。

平井 悠翔

車いすバスケットは普通のバスケットより難しいのに3Pシュートが入っていて凄くと思いました。この授業をやるまでは何も思わずに応援していたけど、この授業をやったからは、応援とは何かとか、応援の大切さを知ることができました。これからは、応援してくれる人に感謝したり、得意なことだけでなく苦手なことにも挑戦したりして、失敗しても何回も挑戦しようと思いました。

天野 愛菜

最後の障がいについての話は、関わり方を見直すことができました。障がいは私たちが作っていて、私たちがなくすることができる聞き、とても納得しました。困っている人がいれば、私たちがなくそうと思いました。

矢後 凜

今日のプレーを見たり、過去の根木さんの体験の話を知りたりして、ものごとは、やろうとすること（チャレンジ）が大事で、苦手なことも得意なことも楽しむことが大切だと改めて考えることができました。また、誰かの応援で頑張ることができ、誰かを応援して自分自身ももっと楽しむことができることをこれからしていけたらいいなと思います。また、苦手なことのできないことはカッコ悪いのではなく、誰にでもあることなので、なんでもチャレンジしていきたいです。

渡橋 明那

チャレンジには失敗はなく、可能性は無限であるということを知り、車いすバスケットで教えてくれたんだと思っています。だからこそ、声を出しての応援を繰り返しやり合う機会を設けてくれたのかと感じました。根木さんの明るい振る舞いや雰囲気を見たことで、自分も応援する人やされる人になろうと思いました。中学校生活にもいかしていこうと思います。

奥本 桜輝

今まで応援された時、自分は「うれしい、頑張ろう。」と思ったことがありました。今回、車いすを動かしていた時に応援されたことを通して、応援には勇気をもらえる、与えることを学びました。根木さんから「チャレンジに失敗はない」ということを聞いて、これからはチャレンジせずに後悔するのではなく、大人になっていってもチャレンジしていこうと思いました。

北崎 愛怜奈

根木さんのお話の中で「障がい」とはどういうことなのかというものがありませんでした。障がいへのイメージはそれぞれの人がつくり出していると思いました。だから僕は、その障がいをなくす人になりたいと思いました。その他にも、「チャレンジに失敗はない」とおっしゃられていました。チャレンジをしなくても成長していくのではなく、どんどんチャレンジを通して成長していきたいと思いました。

梶浦 拓巳

私は根木さんのお話を聞いて無制限にやりたいことを頑張ろうということが大切であるということを知りました。根木先生は、シュートが入らなくても、入るまで粘り強く続けていました。その真剣な姿を私たちは、応援し続けました。応援を受けて「ありがとう」と反応してシュートを打たれていました。本気の姿を応援する雰囲気がありました。障がいをつくるのは私達みんなということを知りました。障がいの有無に関わらず、自分の好き嫌いの物差しで人を差別するのではなく、みんな平等に接することが大事ではないかと考えました。今日のことを通して、自分のやりたいことをやり続け、チャレンジしていく。自分を制限せず、無制限に未来を見て目標を追い続けていきたいと思いました。

市川 結唯

